

＝令和元年度早川南小学校だより＝

はるき



令和元年7月8日

No.16

校長 坂野修一

聞く 聴く 訊く



先週5日(金)に行われました、PTA 役員会から続く給食試食会、授業参観、学年懇談会には、公私ともお忙しい中ご参加いただきましてありがとうございました。いいところを見せようと頑張る子どもたち、テンション高めに元気な子どもたちなど、校舎内全体を何度も何度も巡回する中で、様々な子どもたちの姿がありました。そんな子どもたちの様子を見ていると、先生の話や友達の話をしっかり聴いている子どもを何人も見つけることができました。

「聴く」という漢字を使いました。他にも、「聞く」「訊く」「利く」「効く」と、送り仮名に「く」を使う漢字がこれだけありますが、その内の3つの「きく」を考えてみます。

※「聞く」

最も目にする「聞く」は、意識せずに何となく聞くことを意味しています。この場合、自分にとって関心のあることは耳に入るものの、その他のことに関してはしっかりと聞いていないことも…。つまり、受動的な聞き方です。

※「聴く」

この「聴く」は、意識して対象の音を感じ取ろうとすることを意味しています。相手のしぐさや表情を読み取り、言葉と気持ちにあわせて「聴く」こととなります。「聴く」という漢字はを分解すると、「耳プラス目と心」になりますが、まさにそのとおりです。

※「訊く」

この「訊く」という字は常用漢字ではないため、ややなじみがないかもしれません。しかしその意味にあわせて、あえて分けて使っているケースも見られます。自分のわからないことを明確にするという意味を持っているため、何かを尋ねる場合などに最適です。つまり、能動的な聴き方です。

本校には、早川南小学校^{いい}11学習ルールという約束事があります。各教室にも掲示されているその内容は下記のとおりですが、その⑧は、「友だちや先生の話は、目と耳と心で、最後まで聞こう。」です。学校においては、先生や友達の話聴くのは、「聞く」でなくて「聴く」であってほしいと思います。耳が、心が、目が真っ直ぐな聴き手となった時、聴くことが楽しいと感じるのでしょうか。相手の話をよく聴き、よく理解するという事は、相手を尊重することであり、共感することでもあるでしょう。「聞く」から「聴く」、そして将来的には「訊く」ことができる子どもに変容するように、授業づくりを進めてまいります。

早川南小学校^{いい}11学習ルール

- ①始まる時くには、静かに席についてまとう。
- ②授業の始めと終わりには、しっかりあいさつをしよう。
- ③返事は、「はい」とはっきり言おう。
- ④正しい姿勢で、いすに座ろう。
- ⑤発表するときは、立って、はっきり言おう。
- ⑥席をはなれるときは、いすを入れよう。
- ⑦えんぴつを正しく持って、ていねいに書こう。
- ⑧友だちや先生の話は、目と耳と心で、最後まで聞こう。
- ⑨その場にあった声の大きさと話そう。
- ⑩筆箱の中身をしっかりと準備しよう。(えんぴつ5本、赤青色えんぴつ1本、けしごむ1個、名前ペン1本、じょうぎ、ラインマーカー)
- ⑪引き出しの中を整とんしておこう。